



「世の中にインパクトを与えるビジネスの創造を支援するコンテスツとして日本最大級を誇る『未来2020』で、最先端技術が覇を競うなか、中性能フィルタという、極めてローテクな技術製品が、最高評価である『企業賞』の一つに名を連ねたことに、驚くと共に（低圧損洗浄再生フィルタによるCO<sub>2</sub>コスト削減という）我々の考え方、製品開発が間違いでなかったと改めて自信を深めた」

新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、「聴衆者なし」という異例の開催となった『未来2020』最終審査会（開催日・2月21日、会場・大阪）での表彰を終えた後、ユニパック（本社・埼玉県川口市）の松江昭彦社長は写真向かって右側の人物は感慨深げに話す。

企業賞（日本総合研究所・日本総研賞）を受賞したユニパックの提案は、低圧損プレ・メイン一体型洗浄再生中性能フィルタ「空調用ハイブリッドフィルタ」『薫風（くんぷう）』を中心に据えたもので、①従来フィルタの課題抽出（プレフィルタにかかる人件費、中性能フィルタの購入費、毎年発生する廃棄に伴うCO<sub>2</sub>量等）、②業界初の洗浄再生フィルタ「薫風」の説明、③都心の環境測定から得た知見の紹介、④「薫風」の

主な納入実績とCO<sub>2</sub>削減量の紹介、⑤「薫風」以外の同社SDGs対応フィルタのポテンシャル説明、⑥フィルタの世界市場規模と同社SDGsフィルタの提案状況等を主な内容とする。

## II「未来2020」で最高評価獲得II

〇の固定発生源」となってきた。排出をいかに低減するかという時代にあつてもつたのではない」という日本人独自のエートス道徳的気風から生まれた「洗浄再生フィルタ」は、購入費・人件費・電力量を削減し、LC（CO<sub>2</sub>）を約50%カット。導入された主要メカバンクや国際空港では編集部註



ユニパック  
松江 昭彦 社長

II空調搬送動力のCO<sub>2</sub>排出量の30〜50%削減に成功している」と等と評価。1・2・3テーマの応募の中から、7枠しかない「企業賞」の最高位「日本総研賞」に選出した。

「未来2020」は、異業種連携による事業開発コンソーシアム・III（トリプルアイ）が主催するインキュベーション・アクセラレータープログラム。スタートアップや既存企業の事業分離、これから起業する挑戦者をサポートし、あらゆる企業・投資家等を繋ぎ合わせることで、成長とイノベーションを実現する日本最大級の

審査会は「半世紀にわたる使い捨てが常識とされてきた中性能フィルタは、中・大規模ビルでのCO<sub>2</sub>の固定発生源」となってきた。排出をいかに低減するかという時代にあつてもつたのではない」という日本人独自のエートス道徳的気風から生まれた「洗浄再生フィルタ」は、購入費・人件費・電力量を削減し、LC（CO<sub>2</sub>）を約50%カット。導入された主要メカバンクや国際空港では編集部註

会の機会提供、④現地アクセラレーター等の海外進出支援、⑤事業開発のための資金サポートIII GAP GRANT MIRA 人件費発生）を使い続けており、I（総額1千万円程度）の活用から起業者の挑戦者をサポートし、あらゆる企業・投資家等を繋ぎ合わせることで、成長とイノベーションを実現する日本最大級の

期圧力損失が高い中性能フィルタ（コスト、電気代アップ）と清掃頻度が高いプレフィルタ（余分な人件費発生）を使い続けており、ユーザーは必要なコストを支払いつつ状況に疑問を感じ独自開発した「薫風」シリーズはプレ・メイン一体型で、必要十分な集塵性能を持ちながら、従来型フィルタの200パスカルに対し4分の1の50パスカルの低い初期圧力損失を実現。定風量方式の送風ファンならば、従来比で2割近い消費電力削減を見込める。また同製品は洗浄再利用型であり、2年目から年に1回の洗浄で性能を回復し、計4年間再生使用が可能と購入コストも大きく減らせる。また、従来型のプレフィルタ80枚を2ヵ月に1回の洗浄をした場合と比べると年間メンテナンス負担を26人から2人へと大幅に削減できる。07年に東京ミッドタウンの主力空調フィルタとして4千個が採用されたのを皮切りに三井住友銀行本店、みずほ銀行本店、埼玉りそな銀行本店等の金融機関、羽田空港第2旅客ターミナル、中部国際空港、関西国際空港等の国際空港など、著名施設での導入が続いている。

松江社長は「当社のSDGsフィルタ製品群は、日本の『もったいない精神』が生んだオンリーワンの技術と自負しており、今回の『未来2020』での受賞を契機に、ニッチトップを目指したい。」から大きくは変わっており、初と語る。